行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

平成30年10月22日(月)～23日(火)

視察先 及び 視察事項	・平成30年10月22日(月)	1 市役所新庁舎の建設について
	群馬県富岡市	(1) 新庁舎建設の経過について
		(2) 新庁舎の耐震・免震対策について
		(3) 新庁舎建設に際し、世界文化遺産「富岡製糸場」に配慮した対応について
		(4) PFIなどの事業手法の検討について
		(5) 新庁舎内視察(議会施設含む)
	・平成30年10月23日(火)	2 市役所新庁舎の建設について
	東京都町田市	(1) 新庁舎建設の経過について
		(2) 新庁舎の耐震・免震対策について
		(3) PFIなどの事業手法の検討について
		(4) 新庁舎内視察(議会施設含む)
	・平成30年10月23日(火)	3 市役所新庁舎の建設について
	神奈川県茅ヶ崎市	(1) 新庁舎建設の経過について
		(2) 新庁舎の耐震・免震対策について
		(3) PFIなどの事業手法の検討について
	(4) 新庁舎内視察(議会施設含む)	

1、 群馬県富岡市市役所新庁舎の建設について

- (1) 新庁舎の市民検討委員会は、平成22年度から始まり基本構想は24年、建設設計者選定プロポーザルで、隈研吾建築都市設計事務所に決定し建設設計業務委託を約1億400万で委託した。
- (2) 世界遺産の富岡製糸所の近くにふさわしい「市民とともに進化する安全安心な100年庁舎」をコンセプトにした。また、災害時における防災拠点機能も有し、水道、下水道、電気が停止した場合でも3日間対応が可能である。
- (3) 新庁舎の耐震・免震対策について
6か所の制震ダンパーを採用し、最高水準の安全性を確保しているとの事。
- (4) 総事業費47億1116万円で、合併特例債約30億のため、PFIなどの事業手法は検討しなかった
- (5) 自然を活かしたエコな庁舎とのこと県産材や、きびそ壁紙を使用し、越屋根と吹き抜けで自然換気などを生かしている。が、日照がきつくて業務に差し障るところもあるのではないかと感じた。また、行政棟と議会棟に分けてあり、廊

下には窓がガラスで明るいですが、ガラス張りの議場は少し奇抜すぎて使い勝手がどうだろうかと思う。とにかくデザイン重視と感じた。

2、東京都町田市

- (1) 当時人口18万人の1970年建築旧庁舎が、人口増による狭あいにより1993年には、第2庁舎を建設した。その後、阪神淡路大震災があったことにより、旧本庁舎の耐震化をした。また、廃止になった工場跡地を48億円で購入し、人口40万人に増加してから1997年本格的に新庁舎建設に向けての協議がなされるようになった。その間にも狭あいのために第3庁舎を借り上げていたので、庁舎機能が1か所で納められる新庁舎を目指していた。
- (2) 地上10階地下1階の延べ床面積41510㎡の建物は、耐震性能を通常の建物の1.5倍の強度にし、震度7程度の地震でも安心して、防災災害の復興拠点になるように設計した。また、水害にも備えて電気設備は2階に集中させた。その他、防災関連諸施設も併設している。
- (3) 2004年にPFI方式の検討もしたが、長期的(25年)にかかる経費を検討した点、開庁予定が伸びる点、発注時の市民対応、CM(コントラクトマネージメント)方式採用の点などを考慮すると、直営で良いとのことだった。
- (4) 参考となった点

CM方式により当初168億円で見込んでいた建設費は、148億円まで縮減できた。

業者は、町田型総合評価制度として、地元業者としての市内での貢献度、環境配慮、見学会、ライブメールなどを使用。

駐車場は1100万円で業者に貸し、ロビーも市民に貸し出し可能とし、セキュリティも強化、コンピューター室は、免震化し、屋上には、ホバリングスペースを設け、屋上緑化には、市民農園を作った。また、企業から採用の職員が、民間感覚で設備などを効率的に採用しているのが印象的であった。議会施設においては、執務室や、議会図書館も充実し、議事堂においても最新の施設整備ができていて参考になった。

3、神奈川県茅ヶ崎市

- (1) 市役所本庁舎は昭和49年建築で築35年であるが、耐震性が低いいため、耐震補強か、建て替えを比較したところ後々かかるであろう経費の試算をしたところ、建て替えの方が安くなるとのことで、本庁舎の建設に踏み切った。
- (2) 庁舎には、最新の技術・取り組みを各所に取り入れ将来にわたる安心安全な市民の使いやすい施設整備に取り組んでいる。デザインより実績重視と感じた。
- (3) PFIについては、工事発注の時期設定が鍵で、オリンピック後も建設

業界の需要が数年続くだろうと言う事を見越し、P F Iには時間がかかることから、直接・一括発注にした。

- (4) 計画段階から市民とワークショップなどを積み重ね、特に、議会議事堂も、議会以外の用途で使用可能にしている点が印象的である。また、地球環境に配慮した庁舎として、省エネ対策は、設計に特に重要であると認識した。人口規模が松本市に近い、本市は、参考になる点が多々多かった。しかし、総面積が松本の4%足らず山林面積を除いた面積でも15%足らずのコンパクトシティなので、効率は大変良いと感じた。その点、松本市が、一か所だけの庁舎では課題が多いと感じた。

平成30年 12 月 24 日

松本市議会議長 上條 俊道 様

市役所新庁舎建設特別委員 青木豊子